|  |  |
| --- | --- |
| 指導事例シート⑧ 　　　　　受講者番号（　　　　　　　）　（氏　名：　　　　　　　　　　　　）

|  |
| --- |
| **【地域資源の把握】****※事例提出した利用者の居住する中学校区の状況・特徴****※中学校区内に地域資源がなく、中学校区外で利用している地域資源があれば、その状況・特徴** |

 |
| 項　　　目 | 状　　況 | 特　　徴 |
| 地域の特徴 | 人口 |  |  |
| 年齢・性別人口 |  |  |
| 高齢化率 |  |  |
| 気候 |  |  |
| 交通状況 |  |  |
| 町の様子(住宅地・交通量等) |  |  |
| 公園・散歩コース |  |  |
| 役所・支援センター |  |  |
| 公民館・公共施設(図書館等) |  |  |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 近隣の交流 | 地区の行事 |  |  |
| 近所との付き合い・様子 |  |  |
| 地域のキーパーソン |  |  |
| 相談する人 |  |  |
| その他 |  |  |
| 災害時の対策 | 避難場所・避難所 |  |  |
| ライフライン(電気・ガス・水道) |  |  |
| 連絡を取る方法　等 |  |  |
| バイザーが考える、この提出事例で必要とするインフォーマルサポートは？ |  |
| **※これら中学校区の地域資源の把握から、地域づくり、政策提言の一助とする** |

|  |  |
| --- | --- |
| 指導事例シート⑧ 　　　　　受講者番号（　　　　　　　）　（氏　名：　　　　　　　　　　　　）**例**

|  |
| --- |
| **【地域資源の把握】****※事例提出した利用者の居住する中学校区の状況・特徴****※中学校区内に地域資源がなく、中学校区外で利用している地域資源があれば、その状況・特徴** |

 |
| 項　　　目 | 状　　況 | 特　　徴 |
| 地域の特徴 | 人口 | ７２１０人 | 横ばい状態が続いている。 |
| 年齢・性別人口 | ３５～３９歳代７％、６０～６４歳代８％男３３７４人（４７％）女３８３６人（５３％） | 少子高齢化の傾向がみられる。 |
| 高齢化率 | 高齢化率２３％ | 高齢化率23％は徐々に上がるとみこまれる。 |
| 気候 | 暖温帯、多雨、年間平均気温１７．９℃ | 近年、積雪がふえている |
| 交通状況 | 平地は国道とＪＲ線が並走しており渋滞が深刻高台の公共交通機関はバスが主流。主要駅までは約２０分 | 平地と高台に大きく分かれる 平地は渋滞が深刻 |
| 町の様子(住宅地・交通量等) | 近郊農業が盛んで畑地が占めている。中心部は住宅、教育施設が密集している。中心を通る県道が通る。 | 農業従事者が高齢化しており、将来的に耕作放棄地が増えることが危惧されている。朝、夕は交通量がかなり多い。 |
| 公園・散歩コース | 県立公園まで４ｋｍ 徒歩１０分位の所に公園があり、 | テニスコートや遊具も設置されている。グランドゴルフ等も行われている。 |
| 役所・支援センター | 支所１ケ所、委託型地域包括支援センター１ケ所、障害者支援センターは隣接地域に１ケ所、権利擁護サポートセンターは隣接地域に１ケ所 | 点在している。 |
| 公民館・公共施設(図書館等) | 福祉会館３か所（児童ルーム有）保健センター、高齢者福祉センター | 地区社協によるふれあい・いきいきサロン実施。住民の将棋、囲碁クラブ等が盛ん。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 近隣の交流 | 地区の行事 | 夏祭り：自治体、子供会で実施運動会、敬老会等健康推進委員が月１回お弁当を作り、民生委員が独居高齢者に安否確認を兼ねて配達している。 | 新しい住宅地は若いファミリー層が住むが、昔からの地区は高齢化がすすんでいる。 |
| 近所との付き合い・様子 | 築２５年の住宅地。両隣りは付き合いは良好。ファミリー世帯が多い。 | 地域の住民同士は、以前は隣近所の方と煮物等を届けるなど仲良く助け合ってきた。が今は互いに行き来が少なくなっている。 |
| 地域のキーパーソン | 民生委員、児童委員、学区社協：地域のサービス等の情報提供、相談福祉委員（福祉推進員）生活支援コーディ―ネーター２名 | 学区社協が地域のサービス等の情報を提供、相談にのっている。 |
| 相談する人 | 自治会長：地域での生活上の困りごとを相談できる。 | 近所の友人：子育て中から付き合いがあり、地域の情報を共有している。 |
| その他 | 自治会加入者が減っている。老人会は活動を中止した。 | コロナ禍中は、民生児童委員が電話訪問と称して、月１回独居高齢者宅に電話をかけて安否確認していた。 |
| 災害時の対策 | 避難場所・避難所 | 小学校グラウンド、体育館近所の公園公民館　保育園 | 災害に備えて、避難訓練を実施している。 |
| ライフライン(電気・ガス・水道) | 電気：○○電力ガス：都市ガス。緊急時のメール配信サービス有水道：上下水道とも市が管理ＴＶ、ネット、電話とも同じ会社で契約 | ガスは緊急時のメール配信サービスがある。 |
| 連絡を取る方法　等 | 携帯電話、避難場所、近くの親戚を確認 | 避難訓練の際に、連絡方法の確認を自治体ごとにも実施している。 |
| バイザーが考える、この提出事例で必要とするインフォーマルサポートは？ | 複数のサービス事業所、医療機関があり、両隣や民生委員はじめとした協力相談体制もある。しかし認知症そのものに対する知識習得の機会や予防活動が少ないため、認知症啓発劇、認知症ケアパスの配布や、地域住民が参加できる話し相手ボランティア活動、認知症サポーター養成講座への参加等を促すようなインフォーマルサポートが求められています。 |
| **※これら中学校区の地域資源の把握から、地域づくり、政策提言の一助とする** |